

分科会開催報告書

報告日 平成 29 年 5 月 3 日	報 告 者 小幡 友子																														
分科会名 浮雲俳句会	開催テーマ 第 109 回浮雲俳句会例会																														
開催日時 平成 29 年 4 月 30 日 (日) 午前 9 : 30 ~ 11 : 30	開催場所 能見台地区センター多目的室—B—																														
参加人数 “わ” の会会員 男 12 名 女 5 名 合計 17 名 欠席者 0 名																															
<p>実施内容</p> <p>第 109 回例会の出句は、兼題の①宮ヶ瀬湖②晩春の人事（住まで）と当季雑詠の 4 句。句会は、大川会員による添削披露及び、深沢勝美会員による選句の披講の後、北野主宰から天・地・人賞及び、特選 5 句、佳作 9 句の発表と、夫々の句についての論評があった。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">天賞句</td> <td style="width: 65%;">炉を塞ぎ好みの茶杓鳩干菓子</td> <td style="width: 20%;">あきえ</td> </tr> <tr> <td>地賞句</td> <td>九九覚え掛け算割り算新学期</td> <td>勇 平</td> </tr> <tr> <td>人賞句</td> <td>宮ヶ瀬の湖水にうつる花万朶</td> <td>勝 美</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">特選句</td> <td>花筏幾艘舳ふ宮ヶ瀬湖</td> <td>祥 代</td> </tr> <tr> <td>春障子棧を流るる日の音色</td> <td>和 女</td> </tr> <tr> <td>囀りに耳は貸さじと実時像</td> <td>一 馬</td> </tr> <tr> <td>船笛の金沢沖に朧月</td> <td>二 祥</td> </tr> <tr> <td></td> <td>甲斐の国桃に桜に駒ヶ岳</td> <td>一 祝</td> </tr> </table> <p>主宰の指導</p> <p>浮雲俳句会も回を重ねてきたので、作品も向上しつつある。句の中の季重ねについては、今後、句にとって効果的な場合に限り取り入れてもよい。</p> <p>会員選高点句</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">6 点句</td> <td style="width: 65%;">黒番の次の手を待つ春障子</td> <td style="width: 20%;">十 九</td> </tr> <tr> <td>6 点句</td> <td>客船の千の春灯見送りぬ</td> <td>とも女</td> </tr> <tr> <td>5 点句</td> <td>春障子棧を流るる日の音色</td> <td>和 女</td> </tr> </table> <p>次回の予定</p> <p>平成 29 年 5 月 21 日 (日) 午 9 時 30 分 ~ 11 時 30 分 能見台地区センター多目的室—B—</p> <p>110 回例会 兼題の①尾瀬沼②初夏の人事（農耕から情緒まで）他に当季雑詠の 2 句。披講太田重九会員</p>		天賞句	炉を塞ぎ好みの茶杓鳩干菓子	あきえ	地賞句	九九覚え掛け算割り算新学期	勇 平	人賞句	宮ヶ瀬の湖水にうつる花万朶	勝 美	特選句	花筏幾艘舳ふ宮ヶ瀬湖	祥 代	春障子棧を流るる日の音色	和 女	囀りに耳は貸さじと実時像	一 馬	船笛の金沢沖に朧月	二 祥		甲斐の国桃に桜に駒ヶ岳	一 祝	6 点句	黒番の次の手を待つ春障子	十 九	6 点句	客船の千の春灯見送りぬ	とも女	5 点句	春障子棧を流るる日の音色	和 女
天賞句	炉を塞ぎ好みの茶杓鳩干菓子	あきえ																													
地賞句	九九覚え掛け算割り算新学期	勇 平																													
人賞句	宮ヶ瀬の湖水にうつる花万朶	勝 美																													
特選句	花筏幾艘舳ふ宮ヶ瀬湖	祥 代																													
	春障子棧を流るる日の音色	和 女																													
	囀りに耳は貸さじと実時像	一 馬																													
	船笛の金沢沖に朧月	二 祥																													
	甲斐の国桃に桜に駒ヶ岳	一 祝																													
6 点句	黒番の次の手を待つ春障子	十 九																													
6 点句	客船の千の春灯見送りぬ	とも女																													
5 点句	春障子棧を流るる日の音色	和 女																													